

23/3/14 名古屋市議会経済水道委員会(名古屋城部分)

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

江上博之(共産・中川区): 名古屋城の問題がありますので、ちょっと確認をしていきます

名古屋城天守閣木造化については、私市民合意もなく強引に進めているということで反対をしてまいりました今回、基本計画の提出ということですが、この基本計画の提出するのは、要は文化財保護法に基づく現状変更許可この申請を行うと、こういうことです。

今回議論したように、石垣の穴蔵等はまだ壊れているという状態のまま、調査もないままに申請がなされると、基礎構造についてもきちんとしたものがないままになされると。これ自体も問題だと思っておりますが、今後、文化庁の方で何らかの審議がされ、復元検討委員会で何らかの方向が出るかもしれません。

仮に出たとして、それはあくまで現状変更の許可ということでもありますから、今度名古屋市としてですね、今の現天守を解体し、そして木造復元するということにおいては、改めて収支計画も含めてですね、全体の計画を明らかにしないといけないということがなければ、それ以上のことは進めるべきではないと思っておりますが、そこら辺の考え方について明らかにしていただきたいと思えます。

観光に係る名古屋城の活用担当柴田主幹: はい、収支計画につきましてですけども、復元検討委員会が文化庁におきまして開始されまして議論が進む中で市として新たな進行期限を定めると。そういった段階になりましたら再作成していくといった旨のご答弁を先日させていただいたところでございます。

新たな収支計画再作成した際にございますけれども、議会および市民に対しまして私どもとしてご説明をさせていただきたいというふうに考えているところでございます。

江上博之(共産・中川区): 要はその説明をした上でなければ解体、あるいは木造復元にはかからないと、そういう理解でよろしいですか。

柴田主幹: この収支計画等に含める項目といったものをパラメータというふうに定義させていただきますと、こういった項目を入れていくのかといったことはやはりこの竣工期限といったものを定めた上で、またその竣工期限の際の名古屋城の状況と、いったものを含めまして定めていきたいというふうに考えておりますので、そういった状況を踏まえて皆様の方に広くご説明させていただきたいというふうに考えているところでございます。

江上博之(共産・中川区): その収支計画もですね、この場で発言しあるいは個人質問でもさせていただきますけれども、どこまでも入場料でやるということを前提にした数字であって、数字的にはどう見ても無理だと。

税金投入になると、税金投入になればですね、名古屋城全体の整備ということから言えば、やはりこれは逆にマイナスになるということを思っております。そういう点では改めて木造天守の復元についてはやめ、名古屋城全体の整備、これからいくつかのこともされると思いますが、あるものは残し、対策をし、ないものについて復元をしていくと、あるいは復元事業をしていくということを求めておきます。

以上です。

渡辺義郎(自民・北区): 総括おえますんで、ちょっとお尋ねしておきたいと思いますが、私も思い起こして参りますと、これ4年間、経水にずっとここに入っておりました。

それなぜかと申し上げますと、やはりお城の関係がございましたんで、何度かギクシャクし、うちの浅井委員もいろんな角度から質問したり修正したり、こうあるべきだということも言われてまいりましたんですが、で、これいよいよ、この間のこの委員会でしたか、浅井委員も、ようやくちょっと進んだかなあというような発言もされた。

それで、私は本当にこれ3月末までまとめて、文化庁に出すと、一応揃えて出すんだねこれ。そうすると文化庁がいいですよということになると、解体はしたり、石垣のこともあるんですが、本当にダーツとうれって言っとる、これ本当に最も順調でいけばよ。

これいつ解体し建てる、これなるんだ。大体順調にってどこだっていうことあるんじゃないの。全く先見通しは文化庁に許可を取ってからこれからあれだわな。

工事に入るといつになること、を一体全体、わしら生きとるときにこれを、できるんかなできないのかな、ちょっと心配なってきた。

何故かというのと区のこういうのを言うようなことあるでな、やめてよ直ぐなっちゃうようなことがあるんで、せっかく今までやってきたその城見たいという気持ちが願望があるんだけど、順調にいつてどうだ、アバウト的に。こうだっていうことは何も言えんのか。

この表の目標、何の目標なしでやっとなるのか。どうだ、これ。

天守閣整備担当主幹荒川: 今ご質問いただいた中で、基本計画書を今年度末、もうわずかですけども、取りまとめまして、その後、文化庁の方で令和5年度には復元検討委員会という文化庁の有識者会議で、ご議論いただくというふうに考えております。

日本の中でですね、最大規模の天守閣を復元すると、木造復元すると初めてのことでありますので、その復元検討委員会にどれぐらいかかるのかってのは、正直私どもではつかめないところがございますが、今までの文化庁さんとのやりとりの中でいきますと、概ね2年とか2年半とかっていう期間がかかるのではないかというふうに感じております。そういたしますと、来年令和5年度からそういった時期を経まして、現状変更許

可ということになってきますので、その後木造天守の完成までには、約 6 年半ぐらいかかろうかと思えます。

したがって、来年度からスタートしたとして、2 年半と 6 年半ということで約 9 年かかろうかとか。木造天守の完成までには再順調にいつ9年ぐらいかなというふうに感じております。

渡辺義郎(自民・北区)： 9年ってということは今年5年だもんで足すと、令和14年度ということかかね端的に、そこらへん。アバウト的に正確でないとも、一応ある程度順調にいくと令和14年度というふうに理解してもいいんですか。

荒川主幹： おっしゃる通りでございます。

渡辺義郎(自民・北区)： それだったらそれに向かってしっかりとできるような形、その決意をちょっと局長さんどうですか、そこらあたり。

折戸観光文化交流局長： 天守閣整備に向けて、私の決意を、いうことですが、天守閣整備事業につきましては、本会議質問でも、渡辺委員からも御指摘いただきましたように、事業開始からですね、これまでの紆余曲折しながら、当初の完成期限を過ぎまして、約7年が経過して参りました。

その間ですね、こちらの経済水道委員会におきましては、事業の進め方をもとより、特別史跡における事業であることによる石垣等遺構の丁寧な調査と保護対策、あるいは木造天守復元の意義、バリアフリー対策、財源の確保など、様々な課題についてご議論いただき、時にはお叱りもいただきながらですね、ご指導を頂戴してまいりました。

おかげをもちましてですね、復元検討委員会での議論開始に向けた木造天守整備基本計画の取りまとめもですね、あと一歩のところとなりました。

それで現天守の解体と木造復元を一体とした現状変更許可につきましてもですね、時期はまだ申し訳ありません。明確には申し上げられない状況にございますが、道筋というのがですね、はっきりと見えてきたというふうに認識しております。

先だってですね、2月補正で債務負担行為をご議決いただきましたが、1年ずつ、暫定的に延長していくという状況というのも、そういうことは漫然と続けることがないようにですね、文化庁との調整を精力的に進めて、早期に完成時期の見通しを立てたいというふうに思っております、それを目指してですね、頑張りたいと思っておりますし、一日でも早くですね、天守を木造復元するとともに二の丸庭園とかですね、金シャチ横丁の第2期整備、それと水堀を活用した舟運事業などですね、名古屋城全体の保存整備活用を進めてまいりたいと考えております。

渡辺委員におかれましては、令和元年度に経済水道委員になられまして、一方ならぬ

お世話になりました。でこれまでですねいただきました様々なご指導、ご助言を胸にですね、世界に誇れる日本一の近世城郭として、市民の皆様、日本中、世界中からお越しになられる観光客の皆様に喜んでいただきますよう、より一層気を引き締めてですね。局を挙げて、職員一丸となって取り組んでまいり所存でございますので、今後ともご指導賜りますようよろしくお願いいたします。

渡辺義郎（自民・北区）： もうそれ以上のことは言いません。本当にしっかりとやっていたいただきたいんですが。

先ほどご答弁になったように、一応14年を最大限それに完成させるという目標で頑張ると、こういうふうに理解してもいい、いいですな。これはいいですね。わかりました。ほんならそれをね、私しっかりとやっていたくようよろしくお願い申し上げまして、要望し、いたしまして私の質疑を終わります。

委員長： 他にないようであります。

以上で、観光文化交流局関係の質疑を終了いたします。